

【005】 次の表から正しくいえるのはどれか。

国・地域別 日本人訪問者数(上位5位)の構成比の推移

(単位：%)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
米国	27.3	30.3	31.4	34.1	30.5
韓国	26.0	22.3	19.8	16.7	19.6
中国	26.0	23.4	23.6	22.6	22.1
台湾	10.6	11.5	14.2	14.4	15.7
タイ	10.1	12.5	11.0	12.2	12.1
合計	100.0 (13,539)	100.0 (12,311)	100.0 (11,518)	100.0 (11,027)	100.0 (11,717)

(注) ( )内の数値は日本人訪問者数(上位5位)の合計(単位：千人)を示す。

- 1 2012年における台湾への日本人訪問者数を100としたとき、2016年における台湾への日本人訪問者数の指数は140を上回っている。
- 2 2012年から2016年までの中国への日本人訪問者数についてみると、最も多いのは2012年であり、最も少ないのは2014年である。
- 3 2013年から2015年までの各年についてみると、中国への日本人訪問者数とタイへの日本人訪問者数との差は、いずれの年も2,000千人を上回っている。
- 4 2015年についてみると、米国への日本人訪問者数は、韓国への日本人訪問者数の1.5倍を下回っている。
- 5 2016年についてみると、対前年増加率が最も大きいのは、韓国への日本人訪問者数である。

【006】 次の表から正しくいえるのはどれか。

4島の各空港からZ空港に降りた客数の構成比の推移

(単位：%)

	平成26年	27年	28年	29年	30年
A島	21.5	19.1	18.7	17.0	16.9
B島	31.7	33.1	32.4	32.2	32.3
C島	21.3	20.6	21.7	22.2	21.4
D島	25.5	27.2	27.2	28.6	29.4
合計	100.0 (52,722)	100.0 (54,194)	100.0 (54,426)	100.0 (56,393)	100.0 (54,452)

(注) ( )内の数値は、Z空港に降りた客数の合計(単位：人)を示す

- 1 平成26年から29年までの各年についてみると、B島の空港からZ空港に降りた客数が最も多いのは27年であり、最も少ないのは26年である。
- 2 C島の空港からZ空港に降りた客数についてみると、平成27年から29年までの3か年の累計は34,000人を下回っている。
- 3 D島の空港からZ空港に降りた客数についてみると、平成27年に対する29年の比率は1.2を上回っている。
- 4 平成28年におけるA島の空港からZ空港に降りた客数を100としたとき、30年におけるA島の空港からZ空港に降りた客数の指数は85を上回っている。
- 5 平成30年におけるZ空港に降りた客数の対前年増加率について島別にみると、最も小さいのはA島であり、次に小さいのはC島である。

【005】 5

1 人数を求める

$$2012 \text{ 年} = 13539 \times 0.106 = 1435.134$$

$$2016 \text{ 年} = 11717 \times 0.157 = 1839.569$$

何%増加したかなので、 $1839.569 \div 1435.134 \approx 1.2818$

128 程度であるので、140 を上回っていない。

2 同じように計算してみる

$$2012 \text{ 年} = 13539 \times 0.260 = 3520.14 \quad 2013 \text{ 年} = 12311 \times 0.234 = 2880.774 \quad 2014 \text{ 年} = 11518 \times 0.236 = 2718.248$$

$$2015 \text{ 年} = 11027 \times 0.226 = 2492.102 \quad 2016 \text{ 年} = 11717 \times 0.221 = 2589.457$$

この結果から、最も多いのは 2012 年であるが、最も少ないのは 2015 年である。

3 中国に関しては 2 の計算を利用するため、ここではタイのみ計算する。

$$2013 \text{ 年} = 12311 \times 0.125 = 1538.875 \quad 2014 \text{ 年} = 11518 \times 0.110 = 1266.98 \quad 2015 \text{ 年} = 11027 \times 0.122 = 1345.294$$

どの年も 2,000 千人を上回っていない。

4 韓国=16.7%なので、これを 1.5 倍  $16.7 \times 1.5 = 25.05$ 、アメリカは 34.1%なので、大きく上回っている。

5 前年より%が減少しているのは除いて考える。

増加しているのは韓国と台湾。

$$2015 \text{ 年韓国} = 11027 \times 0.167 = 1841.509 \quad 2016 \text{ 年韓国} = 11717 \times 0.196 = 2296.532$$

$$2296.532 \div 1841.509 \approx 1.2470 \quad \text{約 } 24.7\% \text{ 増}$$

$$2015 \text{ 年台湾} = 11027 \times 0.144 = 1587.888 \quad 2016 \text{ 年台湾} = 11717 \times 0.157 = 1839.569$$

$$1839.569 \div 1587.888 \approx 1.1585 \quad \text{約 } 15.9\% \text{ 増}$$

これが正しい。

【006】 4

1 26 年： $52722 \times 0.317 \approx 16713$  27 年： $54194 \times 0.331 \approx 17938$

28 年： $54426 \times 0.324 \approx 17634$  29 年： $56393 \times 0.322 \approx 18159$

と最も多いのは 29 年、最も少ないのは 26 年である。

2 27 年： $54194 \times 0.206 = 11163.964$  28 年： $54426 \times 0.217 = 11810.442$  29 年： $56393 \times 0.222 = 12519.246$

全て足し合わせると  $11163.964 + 11810.442 + 12519.246 = 35493.652$  と 34,000 を上回っている。

3 27 年： $54194 \times 0.272 = 14740.768$  29 年： $56393 \times 0.286 = 16128.398$

$16128.398 \div 14740.768 \approx 1.094$  なので、1.2 以下である。

4 28 年： $54426 \times 0.187 = 10177.662$  30 年： $54452 \times 0.169 = 9202.388$

$9202.388 \div 10177.662 \approx 0.904$  と 85 を上回っている。

5 A 島の減少が 0.1 に対して、C 島の減少が 0.8 なので、この時点で C が一番小さい。